

学校だより

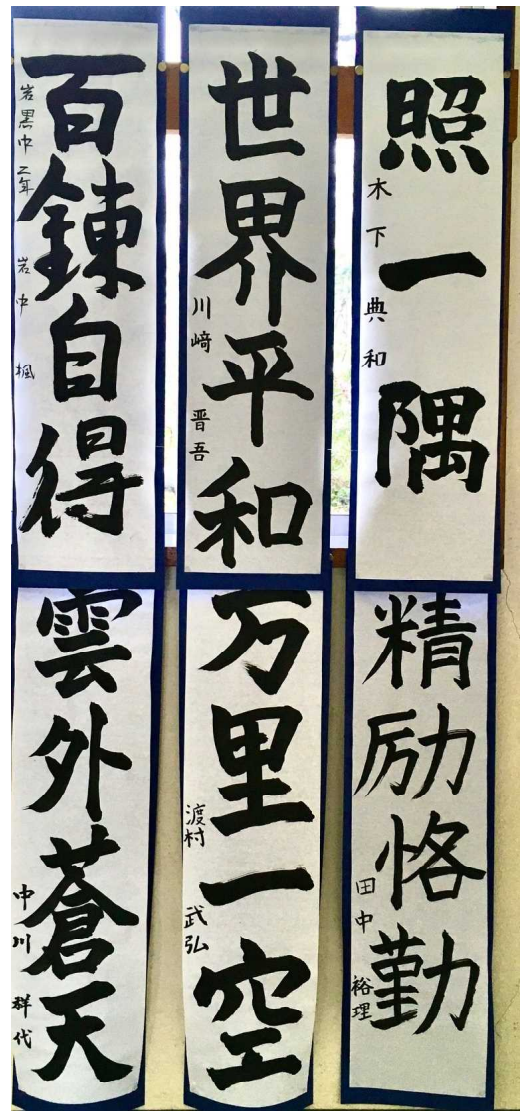


毎週金曜日の朝、学校から港に向かって坂道のカーブを降りていくと、すでにたくさんの方が集まってくれているのが見えます。毎週のことですが、とてもうれしい気持ちになる瞬間です。また心の底から感謝の気持ちがわいてくる瞬間でもあります。私たちは月曜日から金曜日までが勤務日、その最後の日にみなさんといっしょに体操ができるのは、1週間がんばったご褒美のような気がします。いつも、いつも、ほんとうにありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

書き初め大会(1月8日(水))

3学期の始業式の後、書き初め大会をしました。楓さんと教員5名がそれぞれ今年の自分の目標や願いを表した言葉を、心をこめて書きました。

<p>「百錬自得」岩中 楓</p> <p>1つのことを百回(それぐらい多く)反復して行えば、自分の身につけることができる</p>
<p>「世界平和」川崎晋吾</p> <p>今年こそ世界中から戦争や争いがなくなり、人々が平和に暮らしていけますように</p>
<p>「照一隅」木下典和</p> <p>たとえ社会の一隅にあっても社会を明るく照らし続けられる人でありたい</p>
<p>「雲外蒼天」中川祥代</p> <p>試練を乗り越え、努力して克服すれば、快い青空を見ることができる</p>
<p>「万里一空」渡村武弘</p> <p>目的、目標、やるべきことを見失わずに励み、頑張り続ける</p>
<p>「精励恪勤」田中裕理</p> <p>力の限りを尽くして学業や仕事に励む</p>



今年、楓さんはいよいよ中学3年生になります。勉強、部活動、学校行事、いろいろなことをしっかりがんばって、多くのことを身につけてほしいと思います。

カエデは56年前の東京オリンピックでも聖火を運んでいた！

……驚くべき偶然 オリンピックの聖火にまつわるお話……

前号の「学校だより」で、2020年東京オリンピックの聖火ランナーの一人に岩中楓さんが選ばれたというお知らせをしましたが、今回は「偶然」というにはあまりに不思議な(運命を感じるような?)お話をします。

これは1964年の東京オリンピックで聖火を運んだ話です。聖火を乗せた日本航空の飛行機「シティ・オブ・トウキョウ」号は、1964年8月23日にギリシャのアテネを出発しました。中東を越えて東南アジアと順調に予定を消化し、日本までの旅路もあとわずかとなった9月4日、一行が到着した香港には強い雨が降っていました。大きな台風が接近していたのです。



天候の悪化を受けて、香港の啓徳空港は閉鎖となり、「シティ・オブ・トウキョウ」号の出発は24時間延期となってしまいました。天候が回復した翌朝は、すぐに次の目的地である台北へと飛ばなくてはなりません。ところが何と、「シティ・オブ・トウキョウ」号は前日の暴風雨のなかで野ざらし状態だったため、補助翼と操縦系統が破損して、飛行不能になったのです。今後の聖火リレーのスケジュールを考えるとこれ以上遅れるわけにはいきません。もはや万事窮すか……。

ここで、たまたま啓徳空港にいた日本航空のコンベアCV880M型のジェット機に注目が集まりました。この「代替機」によって、聖火と一行はようやく香港を飛び立つことができました。翌朝には、修理が終わった「シティ・オブ・トウキョウ」号も香港を出発し、次の目的地である台北で一行と合流、その後は無事に沖縄、そして鹿児島へと聖火を運び、ランナーが日本中をつないで10月10日、東京での開会式を迎えました。

お話は以上で終わりですが、驚くべきは聖火リレーの大ピンチを救った「代替機」の名前です。そのジェット機の名前は何と「カエデ号」！カエデは56年前の東京オリンピックでも聖火を運んでいたのです。何とも不思議な偶然ですね。きっと楓さんも、このジェット機のように、みんなの夢と希望を乗せて、しっかりと聖火を運んでくれることでしょう。4月19日(日)が待ち遠しいですね。

【この記事はNHK・BS放送「シブ5時・1964東京五輪・聖火空輸の秘話」(1月7日放送)を参考にしました。】

2月の予定 ◆◆◆◆◆◆◆◆

- 3日(月) 身体計測 視力検査 ビブリオバトル
- 4日(火) クリーンアップ活動(学校のみで行います)
- 8日(土) 県ジュニアバドミントン選手権大会
(三豊市総合体育館)岩中楓さん出場予定
- 12日(水) 学習の診断(県下一斉の5教科テスト)
- 15日(土) 西讃地区中学生バドミントン強化練習会
- 17日(月)～ 体育館LED工事(2月末終了予定)
- 18日(火) 学校運営協議会(コミュニティスクール) 移動図書館
- 26日(水)～28日(金) 学年末テスト

